

(当センター事務局が発表資料をもとに要約を作成)

## 「この異常気象は地球温暖化が原因か？」(要約)

国立環境研究所 釜江陽一特別研究員  
塩竈秀夫主任研究員

- △ 社会的に大きな被害をもたらした気象イベントについて、地球温暖化の寄与度を評価したところ、自然本来の「ゆらぎ」が最も重要であることが多い一方で、一部イベントは地球温暖化の進行によって、その発生確率が大きく引き上げられていることが分かりました。
- △ 極端な異常気象の中でも、大雨や干ばつ、熱帯低気圧の発生頻度の変化については、地球温暖化との関係性がまだよく分かっていません。これは長期間にわたる一定品質の観測データ収集が困難であること、自然のゆらぎの影響が大きく長期的な変化傾向検出が困難であること、現象の発生頻度変化のメカニズム理解が不十分であること、等が原因です。
- △ 1880年から2012年の期間には、世界平均で0.85°Cの気温上昇が認められます。一方で、過去15年程度の期間では世界平均の気温はあまり上昇していないと報告されています。これは「ハイエイタス (hiatus、中断という意味) と呼ばれています。
- △ ハイエイタスの主な原因は、太平洋における大気と海洋の循環が、ここ十数年間は「自然のゆらぎ」の影響で特徴的な状態になっている、と世界中の数多くの研究者が指摘しています。つまり、太平洋の表層が冷たく、西側の太平洋内部に暖かい海水が閉じ込められているのです。「自然のゆらぎ」は十年から数十年程度の間隔でゆれ動くので、いずれ元のようなスピードに戻るだろうと考えられています。

以 上